

和而不同

東亜総研10年史

The TOA Institution.
10 years history

東亜総研10年史

The TOA Institution.
10 years history

04 - 地球村時代に生きる気概に燃えて。

TOA HISTORY #01

06 - 友好発展の礎を築く。

TOA HISTORY #02

08 - 「アジアを変える、世界に挑む」日越大学開学からの歩み。

TOA HISTORY #03

10 - グローバル人材共生社会をめざし、技能実習生育成・保護・支援を。

TOA HISTORY #04

12 - 多彩な国際交流を先導。

14 - 東亜総研、10年の歩み。

16 - 東亜総研とNAGOMi

17 - 東亜総研創設10周年に寄せて。

〈特別対談〉

20 - **これまでの10年、これからの10年。**

24 - 世界は日本を待っている。東亜総研の道しるべ

26 - 東亜総研の未来に寄せて。

28 - 公益財団法人 東亜総研～組織と主な事業

和而不同（わして どうぜず）論語・子路（君子和而不同 小人同而不和）
人との関係は、それぞれの主体性を生かし調和してなすべきであり、
むやみに付和雷同して付き合うべきではないという意味。
（国と国との関係も同様と思います）

武部勤書

和而不同

地球村時代に 生きる気概に燃えて。

万物躍動の季節となりました。ようやくコロナ禍から抜け出し、新たな出発の時が来たようです。2013年6月、「アジアの国々とのプラットフォームづくり」をめざし、一般財団法人東亜総研を設立して以来、皆様のご指導とご支援のおかげで10年の歩みになりました。あらためて感謝とお礼を申し上げます。

2018年6月、公益財団法人に変更し、「人づくりは国づくり」の精神で日越大学構想や技能実習生受け入れ監理団体として微力を尽くしてきました。

特に「模範的なアジアの人材育成・人材確保システムの構築」をめざし、外国人材共生支援全国協会（NAGOMI）を設立し、技能実習制度と特定技能制度の一貫性ある制度改正に向け奔走してまいりました。

また日越大学は、日越両国共同の国家プロジェクトであり、2016年9月、ハノイ国家大学の7校目の大学として修士課程から開学、2020年10月に日本学プログラム、2020年10月に日本学プログラムの学部開設を経て、本年から6プログラムの学部、8プログラムの修士課程、日本学博士課程を有する総合大学へと地歩を築きつつあります。ハノイ国家大学内の仮校舎への移転も始まり、日本のODA事業による新キャンパス建設も本決まりになりました。

この間、当財団は日越大学国内支援事務局を担うとともに私が代表の日越大学日本委員会の運営にも携わっています。

さらに当財団は、アジアの国々や人々との友好交流事業に力を入れてまいりました。本年2月の日越外交関係樹立50周年記念の「第8回ジャパン・ベトナムフェスティ

バル」は延べ48万5千人も集まりました。両国政府後援による日越外交関係50年、クアンニン省創立60年記念「北海道フェスティバル in ハロン」が11月に開催されます。

その他、北海道モンゴル経済交流促進事業や中国遼寧省からの修学旅行交流事業にも着手してまいりました。残念ながらコロナ禍で中断されましたが、再開が期待されています。

世界は今、ウクライナ戦争や頻発する自然災害等により極めて困難な状況が続いており、ベトナム戦争から半世紀になろうというのに枯葉剤による障害者が100万人を超えるという現状を思うと地球の未来が心配になります。

しかしながら時あたかもゼレンスキーウクライナ大統領を迎え、インドなどグローバルサウスの首脳も参加して「G7広島サミット」

が開催され、分断から協調へ新しい秩序への萌芽を感じることができたのも事実です。

「広島から核兵器のない世界を」と訴えた岸田首相に呼応し、「日本を再び輝く国に変え、選ばれる国にするために我々は何をなすべきか」真剣に考えてまいりたいと思います。

今こそSDGsの「誰一人取り残さない（leave no one behind）」の理念に基づき、差別のない共に活躍できる多文化共生社会の実現に向け、一人ひとりがベストを尽くすべき時だと考えます。

東亜総研一同、これからの10年、地球村時代に生きる気概に燃え、世界の平和とアジアの安定、そし

て日本の持続的成長のために、日々新たに研鑽し、努力してまいりたいと存じます。

何卒、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2023年6月18日

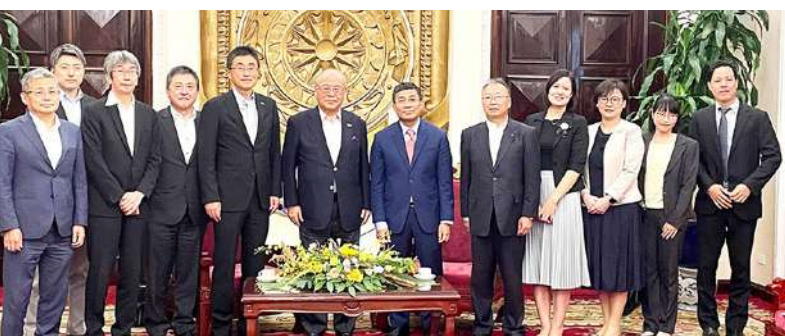
公益財団法人 東亜総研
代表理事・会長

武部 勤





2015年7月、モンゴル民主化
25周年記念式に安倍総理
特使として出席（中央はエル
ベグドルジ大統領）。



2022年3月、グエン・ミン・
グー第一外務副大臣と会
談。中田在札幌ベトナム名
誉領事、渡邊公使、JICA清
水所長らと。

2022年3月9日、武部会長が
ハノイ市でベトナムのファム・
ミン・チン首相と会談。広範な
パートナーシップ提携をさらに
前進させる意向を示す。



TOA HISTORY #01

友好発展の礎を築く。

ベトナム、インドネシア、モンゴルをはじめとするアジア諸国首脳との人脈を礎に、
日本と友好発展の架け橋となる。アジアの安定と日本の持続的成長を支える
原動力として一層の友好関係促進に努める。

4. 2019年9月15日、「ベトナムフェスティバル in 札幌」オープニングセレモニーで、ベトナムのチュオン・タン・サン元国家主席と。

5. 2015年9月16日、訪日時のトー・フイ・ルア越日友好協会会長と。

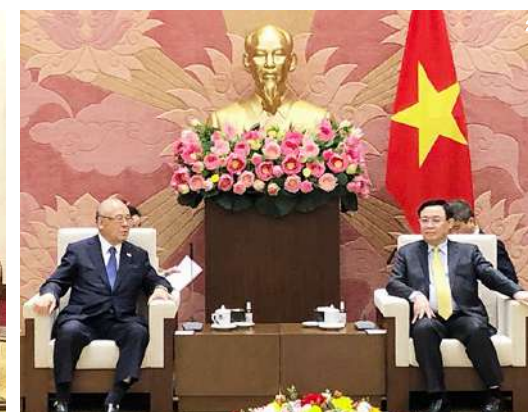
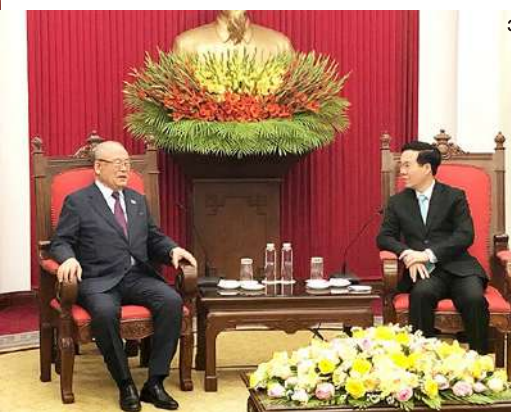
6. 2022年11月、ウフナーギーン・フレルスフ大統領からモンゴル国最高の赤色勲章を授与。

7. 2022年10月17日、チュオン・ティ・マイ越日友好議員連盟会長・党常務中央組織委員長と。北海道をはじめ地方レベルの交流促進について確認。

8. 2018年6月、故チャン・ダイ・クアン国家主席から友好勲章を授与。

9. 2022年3月11日、グエン・スアン・キー・ベトナムクワンニン省党委書記と。

10. 2016年9月9日、二階俊博自民党幹事長らと、ベトナムのグエン・フー・チョン共産党中央執行委員会書記長を表敬訪問。



1. 2018年6月25日、東京都内にて「東亜総研設立5周年及び公益法人認定記念フォーラム」開催。小泉純一郎元首相にご講演頂く。

2. 2022年7月29日、ベトナムのヴォン・ディン・フエ国会議長と会談。日越外交関係樹立50周年に向け、日越人材交流の強化について確認。

3. 2022年3月10日、武部会長がベトナムのヴォー・ヴァン・トゥオン共産党書記局常務と会談（当時）。2023年3月同氏は国家主席に就任。



2014年12月20日、チュオン・タン・サン国家主席、トー・フィ・ルア党政治局員（越日議連会長）らと日越大学起工式に臨む。

TOA HISTORY #02

「アジアを変える、世界に挑む」 日越大学開学からの歩み。

日越大学は日越両国の共同の国家戦略プロジェクト。東亜総研の武部会長は日越大学の理事であり、日本委員会代表。
アジアのハーバードをめざす日越大学は、日越両国の友好と結束の象徴。

4. 2020年10月19日、菅義偉首相の日越大学訪問を歓迎する学生達。

5. 2020年10月19日、菅首相と学生達の対話集会。

6. 2022年3月、グエン・キム・ソン教育訓練大臣を表敬訪問。

7. 2023年5月4日、日越大学関係省庁会議の佐々木審議官らと移転予定地のハノイ国家大学キャンパスと日越大学仮校舎建設現場を視察。



2022年3月、ハノイ国家大学・クアン総長らと日越大学新キャンパス予定地を視察。



1. 2017年3月16日、日本ベトナム経済フォーラム吉田允昭代表理事のハノイ国家大学発展貢献勲章授与式にて。

2. 2017年6月16日、東急電鉄の越村敏昭相談役による特別講演「日本企業が日越大学の卒業生に求める人材像とは」を開催。

3. 2016年9月9日、二階俊博自民党幹事長、北岡JICA理事ら日越大学開学式に出席。



6. 2023年1月、あけぼの成田国際研修センター空先生、熊澤先生をお迎えし「日本語学習会」。道東地区の技能実習生、特定技能、実習実施者54名が大集合。コロナを乗り越えての再会に笑顔・笑顔・笑顔…。7. 空港にて実習生らと。



8. 北海道佐呂間町の農業実習生。東亜総研理事・長澤雄二郎行政書士と一緒に。裏の畑には、つがいのタンチョウ鶴・野ウサギ、春には白鳥が。

9. 2019年3月、緊張する1期生の入社式。

10. 技能実習生集合！社長手作りの昼食と週末のカラオケが楽しみです。

11. 2022年第3回東亜総研日本語作文コンクール最優秀賞。「笑顔」のドアン・ゴック・トゥエット・ニーさん。



「人づくりは国づくり」 公益財団法人 東亜総研／代表理事・理事長 長澤 薫

東亜総研の技能実習生受入れ事業は、2015年、北海道よりスタートし、現在まで600名を超えるアジアの若者達と出会うことができました。これまで、人財を真ん中に、受入れ企業、地域、送り出し国の皆様の力強いご協力をいただきながら、東亜総研は歩んでまいりました。最初の受入れ企業である北辰土建の鴨下社長は「彼らと一日も長く一緒に仕事をしたいが、それ以上に日本で学んだことをいかし、幸せになってもらうことが一番大切だ」と話してくださいました。日本の国柄に憧れて日本を選んできた若者達には、それぞれ大きな夢があります。「夢をカタチに」するため、これからも一緒に挑戦していきたいと思います。



TOA HISTORY #03

グローバル人材共生社会をめざし、 技能実習生育成・保護・支援を。

アジアからの技能実習生を受け入れ、育成・保護・支援し地域産業活性化に貢献すべく誠意を尽してきた。
技能実習制度と特定技能制度の一元的に見直し、信頼され選ばれる日本をめざす。



1. 2020年、ベトナムからの仲間に手作りマスクを贈る（北海道・稚内市）。
2. 2020年4月、新入職員（東京・札幌・北見）6名を迎えて職員研修を開催。北見事務所前で記念撮影。
3. 空港にて実習生らと。
4. 2016年、会社の同僚が用意してくれた浴衣で町内のお祭りに参加。運命的な出会いを果たし、3年後に結婚した実習生がこの中にいます。
5. 2022年10月10日、宿泊分野を目指す技能実習生に対して来日前に日本のおもてなし文化を教育するベトナム初のOMOTENASHIスクールをホーチミン市に開校。





5. 2019年5月20日、中国の修学旅行生を受け入れ。東京都渋谷区立千駄谷小学校で小池百合子都知事を交えての交流会で。

6. 2019年9月27日、東亜総研と遼寧省教育基金会との間で「日中教育文化交流協力に関する覚書」を金理事長と締結。覚書に教育・文化・福祉・スポーツなど多方面の交流を盛り込む。

7. 2022年8月、日本モンゴル外交関係50周年記念フォーラムでスピーチする柳澤徳次日本モンゴル親善協会会長。

8. 2022年10月、ハロン大学と国立北見工業大学の協力覚書締結式に立ち会う。土屋北海道副知事、ハイン クアンニン省副知事らと。

9. 2019年8月、モンゴル-北海道チャーター便就航記念セレモニー。



2019年のチュオン・タン・サン元国家主席やクアンニン省グエン・バン・タン知事（現交通運輸大臣）が参加した第1回ベトナムフェスティバル in 札幌。2022年9月、第2回フェスティバルにはチュオン・ティ・マイ越日議連会長（現党常務）一行が札幌を訪れ日越友好の輪は地方レベルに広がり、2023年11月、ク

東亜総研は、日越大学構想支援を機に、多種多様な人材育成・国際交流を手がけてきた。2013年3月、日越外交関係40周年記念事業として日越大学構想が具体化、同時に第1回ジャパンフェスティバルも開催。第4回からジャパンベトナムフェスティバルとして日越共同開催となり、コロナ禍のために一時中断したが、2022年の第7回は、オンライン参加によるハイブリッド形式で開催。帰るに帰れない技能実習生がオンラインで家族や友達と交流する映像をみて涙する場面にも思いがけ。2023年2月日越外交50周年の第8回は、ホーチミン市も主催者に加わり、48万5千人という空前の大盛況。

その他、武部会長は、国立長岡技術科学大学名誉博士、モンゴル国立生命科学大学の名誉博士、ハロン大学特別顧問などを務め、未来を託す若者たちに期待をかけてアジアの国々を往来している。東亜総研は、「人づくりは、国づくり」の精神で多様な「人材育成・国際交流」を重点に活動している。

アンニン省創立60年、日越外交関係50周年の北海道フェスティバル in ハロンに繋がった。2016年に北海道モンゴル経済交流促進調査会を設立、北海道モンゴルビジネスフォーラムを相互に開催、新千歳空港とウランバートル新空港を結ぶチャーター便の就航も実現した。2022年8月、日本モンゴル外交関係50周年に、二階俊博前幹事長、林幹雄日本モンゴル友好議員連盟会長ら大モンゴル訪問団を送り、日本モンゴル代表者会議に参加。武部会長は、JICA主催の「モンゴル観光セミナー」で講演。さらに東亜総研は、2019年5月、日中修学旅行交流で遼寧省の開原小学校の児童を迎え入れた。2020年以降、新型コロナウイルス感染症のために中断したが、今後は国際修学旅行への期待感が大きくなるであろう。



2023年2月25～26日、日越外交関係樹立50周年記念 第8回ジャパン ベトナム フェスティバルの開催風景。ホーチミン市9月23日公園にて。



TOA HISTORY #04

多彩な国際交流を先導。

ジャパン ベトナム フェスティバル、日蒙経済交流、日中修学旅行交流など多種多様な友好イベントで国際交流。

※2013年以来、ベトナム最大の日越交流イベントであるジャパン ベトナム フェスティバルの開催を支援。

※2016年、北海道モンゴル経済交流促進調査会設立とモンゴル調査団派遣。

※2019年には日中教育文化交流事業として中国から小中学校の修学旅行生の受け入れを開始。



1. 2021年4月17日、オンラインで開催した第7回ジャパン ベトナム フェスティバル開会式。武部勤JVF日本側実行委員長とトー・フィ・ルアJVFベトナム側実行委員長は映像で出演。

2. 2022年9月10日、「ベトナムフェスティバル in 札幌」オープニングセレモニー。越日友好議員連盟のチュオン・ティ・マイ会長（党中央組織委員長）が来賓挨拶。ベトナム国家芸術団が伝統芸能を披露。

3. 2019年11月、武部日越友好議連特別顧問、ハノイ FPT大学名誉教授を授与。

4. 2023年2月25日、「第8回 ジャパン ベトナム フェスティバル」にて、先人を慰霊し平和を願うメッセージや、日本の伝統文化である盆踊りの楽しみを観客へ伝える「日越友好平和ぼんおどり大会」。





東亜総研、10年の歩み。

6月／一般財団法人東亜総研設立。
8月／当財団武部勲代表理事・会長、ベトナム社会主義共和国より「友好勲章」受章。
11月／東亜総研設立記念フォーラム開催。
11月／JVF2013

2月／ロフサンワンタン・ボルト外務大臣を迎え、モンゴル・日本パートナーシップふれあいコンサート」の開催（北見市）。
8月／東亜総研北見事務所開設。
11月／JVF2014
11月／JICAと共催で「日越大学構想セミナー」開催。

4月／外国人技能実習生受入監視団体となる。
7月／ベトナム労働・傷病兵・社会問題省のDOLABと覚書を締結。
7月／モンゴル民主化25周年記念式典に安倍総理特使として武部勲会長参列。
11月／JVF2015
12月／内閣に「日越大学に関する関係省庁会議」設置。
12月／東亜総研釧路連絡所開設。

2月／北海道モンゴル経済交流促進調査会設立。
3月／北海道ベトナム交流協会設立。
7月／ト・フイルア越日友好協議会会長来日、知床・北見を視察。
9月／北海道モンゴル経済交流促進調査会・モンゴル訪問。
9月／日越大学大学院修士課程開学。
11月／JVF2016

2月／北海道モンゴルビジネスフォーラム「開催札幌」。
3月／吉田允昭氏がハノイ国家大学より勲章受章。
1月／第5回JVF
2月／第2回北海道モンゴルビジネスフォーラム「開催」。
5月／武部会長 旭日大綬章受章。
6月／公益財団法人 東亜総研としてスタート。
6月／国賓として来日されたベトナム社会主義共和国チャン・ダイ・クアン国家主席より武部会長「友好勲章」を受章。
6月／東亜総研設立5周年及び公益財団法人設立記念フォーラム開催。
9月／武部会長、ベトナム農民協会主催の「農業・農民農村に関するセミナー」で講演。
9月／武部会長、モンゴル訪問。パトルガ大統領と会談。
9月／武部会長、モンゴル国立生命科学大学で講演。

1月／第6回JVF
3月／北京で「日中教育文化交流協力」覚書に調印。
3月／東亜総研札幌事務所開設。
5月／中国遼寧省から第1次修学旅行生来日。
7月／中国からの修学旅行、第2、3次が東京、箱根、筑波を訪問。
7月／武部会長訪越、グエン・スアン・フック首相と会談。
8月／北海道千歳市にて新千歳・ウラン・バートル間の直行便就航セレモニー。
9月／ベトナムフェスティバル in 札幌（ベトナムのチュオン・タン・サン元国家主席、クアンニン省グエン・パン・タン知事ら出席。鈴木直道北海道知事と会談。
9月／武部会長訪中、遼寧省教育基金会と東亜総研は「日中教育文化交流協力に関する覚書」を締結。
11月／武部会長訪越、クアンニン省グエン・バン・タン知事と北海道の交流推進で一致。武部会長、FPT大学から名誉教授の学位を授与。

2019
2018
2017
2016
2015
2014
2013

安倍政権の経済政策「アベノミクス」が始動。
参院選で自民・公明両党が過半数獲得、ねじれ解消。
2020年夏季五輪、パリリンピック、東京開催決定。

7年ぶりの円安・株高。
青色発光ダイオードの開発で日本人3人がノーベル物理学賞受賞。
TPP交渉が大筋合意。
COP21でパリ協定採択。

アメリカとキューバが54年ぶりに国交を回復。
安全保障関連法が成立。
ラグビーW杯、イングランド大会で、日本代表が優勝候補の南アフリカに歴史的勝利。
リオ五輪過去最多41メダル。
外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律の施行。
熊本地震発生。
天皇陛下、退位の意向示唆。
リオ五輪過去最多41メダル。
外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律の施行。

平昌五輪で冬季最多13メダル、フィギュアの羽生結弦は6年ぶりの連覇。
米朝が史上初の首脳会談。
働き方改革関連法が成立。
米中貿易摩擦が激化。
北海道胆振東部地震発生。
アジア初となるラグビーW杯、日本大会が開催。
米「パリ協定」離脱を国連に通告。
英下院が解散、総選挙、EU離脱が最大の争点。

外国人技能実習機構設立。
外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律の施行。
平昌五輪で冬季最多13メダル、フィギュアの羽生結弦は6年ぶりの連覇。
米朝が史上初の首脳会談。
働き方改革関連法が成立。
米中貿易摩擦が激化。
北海道胆振東部地震発生。
アジア初となるラグビーW杯、日本大会が開催。
米「パリ協定」離脱を国連に通告。
英下院が解散、総選挙、EU離脱が最大の争点。

2023
2022
2021
2020

東京五輪、2021年への延期が決定。
新型コロナウイルスの感染拡大、緊急事態宣言を発布。
一般財団法人 外国人材共生支援全国協会（NAGOMI）設立。

新型コロナウイルススワクチン接種開始。
東京五輪開催、日本は史上最多58メダルを獲得。
北京五輪で冬季最多18メダルを獲得。
ロシアがウクライナに侵攻。
知床観光船沈没事故。
安倍元首相が凶弾に倒れる。
参院選で自民大勝、改選過半数。
コロナ感染、1日10万人に。

ロシアがウクライナに侵攻。
知床観光船沈没事故。
安倍元首相が凶弾に倒れる。
参院選で自民大勝、改選過半数。
コロナ感染、1日10万人に。

32年ぶり円安1ドル150円突破。
中国で習政権3期目発足。
サッカーカタールW杯開催、日本代表16強入り。
トルコ・シリアでマグニチュード7.8の地震発生。
スキージャンプW杯で日本勢が史上初の表彰台独占。
野球のワールド・ベースボールクラシックで日本が前回優勝のアメリカを下し3度目の優勝。
新型コロナウイルス感染症、季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げ。
G7広島サミット開催。

1月／二階俊博自民党幹事長・日越友好協議会会長千人の大訪越団と共にダナン訪問。
4月／外国人技能実習の保護で緊急対策を政府に要請。
5月／東亜総研主催、北海道の技能実習生作文コンクールを実施。
7月／監理団体などの全国組織、外国人材共生支援全国協会設立で代表理事会長に武部氏就任。
11月／JICAモンゴル国観光調査を受託。
11月／武部会長、ベトナム海外労働者派遣協会（VAMAS）のジアン・マウジエップ会長と会談。
4月／ベトナム人技能実習生タオさん、北見工科大学院に入学。
4月／第7回JVF（日本からはオンラインで参加）。
7月／JVF実行委員会よりベトナム政府ワクチン基金へ寄付。
11月／ファム・ミン・チン首相来日。NAGOMIとVAMASで技能実習生に関する覚書締結。
3月／武部会長、ハノイ国家大学新キャンパスでレ・クアン・新総長と会談。
3月／武部会長訪越。ファム・ミン・チンベトナム首相、ダオ・グック・ズン（MOLISA）大臣、ウオ・イ・ヴァン・トゥオン共産党書記局常務現国家主席、グエン・スアン・キークアンニン省党書記、チュオン・タン・サン元国家主席、ファン・ヴァン・マイホーチミン市人民委員長らと会談。
3月／日本語能力試験、東亜総研関係実習生約50%がN3以上を取得。
4月／日越大学推進議員懇話会設立総会。金田勝年会長、武部新幹事長を選出。
6月／東亜総研定例セミナーで、小林鷹之経済安保担当大臣、内閣府特命担当大臣が講演。
7月／武部会長訪越。ヴァン・ディン・フエ国会議長、チュオン・ティ・マイ越日友好協議会会長、ブイ・タイン・ソン外務大臣らと会談。
8月／武部会長、日本モンゴル外交関係樹立50周年記念で訪問。フレルスフ大統領らと会談。
9月／「ベトナムフェスティバル in 札幌」開催。チュオン・ティ・マイ越日友好協議会会長らが出席。
9月／ハインクアンニン省副知事一行、「ベトナムフェスティバル in 札幌」に参加で来道。国立北見工大、日体大網走高等支援学校を訪問。

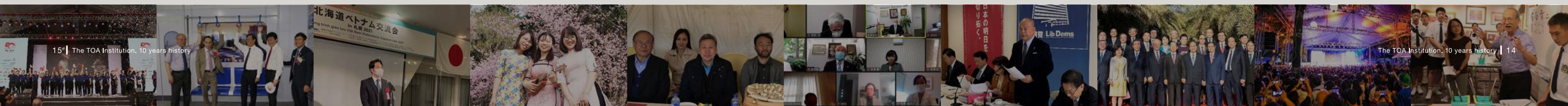
10月／ベトナム初のOMOTENASHIスクールが開校。
10月／武部会長、ハロン大学の特別顧問就任。
10月／武部会長、ファム・ミン・チン首相と会談。
10月／武部会長訪越、チュオン・ティ・マイ越日協議会会長と会談。
11月／東亜総研関西事業本部開所式。
12月／「ホーチミンフレンドシップダイアログ」出席。
12月／武部会長訪越。レー・ミン・ホアン農業農村開発大臣、グエン・バン・タン交通運輸大臣、グエン・スアン・キークアンニン省党書記、レ・クアン・ハノイ国家大学総長らと会談。
2月／東亜総研定例セミナーで、松川るい参議院議員の講演。
2月／日越外交関係樹立50周年記念第8回JVF開催。ファン・ヴァン・マイホーチミン市長が主催者挨拶。
2月／日越大学理事会開催。
2月／武部会長、チュオン・ティ・マイ越日友好協議会会長、チャン・ホン・ハー副首相と会談。
2月／武部会長、グエン・スアン・キークアンニン省党書記と会談。「北海道フェスティバル in ハロン」の成功を共に確約。
3月／グエン・バン・タン交通運輸省（MOT）大臣との会談。
3月／北見事務所、札幌事務所、東京本部で技能実習生252名、特定技能32名の受入れ実績。
5月／武部会長訪越、佐々木内閣府審議官らと日越大学新キャンパス建設予定地を視察。VNU・レ・クアン・総長、VJU古田学長らと懇談。
5月／二階俊博日越友好協議会会長らと合流。ヴァン・トゥオン国家主席、ファム・ミン・チン首相、ヴァン・ディン・フエ国会議長らと会談。チュオン・ティ・マイ越日協議会会長（党常務らと日本の運の樹植式を行う）。
5月／タイン・ホア省（ト・フイルア）越日友好協会会長、ファム・ミン・チン首相の出身地で日越外交関係50周年を祝うレセプション開催。日本からの国会議員約10名、山梨知事ら行政・経済団体約100名が参加。
6月／東亜総研創立10周年記念フォーラム開催。
11月／「北海道フェスティバル in ハロン」開催予定。

2023
2022
2021
2020

10月／ベトナム初のOMOTENASHIスクールが開校。
10月／武部会長、ハロン大学の特別顧問就任。
10月／武部会長、ファム・ミン・チン首相と会談。
10月／武部会長訪越、チュオン・ティ・マイ越日協議会会長と会談。
11月／東亜総研関西事業本部開所式。
12月／「ホーチミンフレンドシップダイアログ」出席。
12月／武部会長訪越。レー・ミン・ホアン農業農村開発大臣、グエン・バン・タン交通運輸大臣、グエン・スアン・キークアンニン省党書記、レ・クアン・ハノイ国家大学総長らと会談。
2月／東亜総研定例セミナーで、松川るい参議院議員の講演。
2月／日越外交関係樹立50周年記念第8回JVF開催。ファン・ヴァン・マイホーチミン市長が主催者挨拶。
2月／日越大学理事会開催。
2月／武部会長、チュオン・ティ・マイ越日友好協議会会長、チャン・ホン・ハー副首相と会談。
2月／武部会長、グエン・スアン・キークアンニン省党書記と会談。「北海道フェスティバル in ハロン」の成功を共に確約。
3月／グエン・バン・タン交通運輸省（MOT）大臣との会談。
3月／北見事務所、札幌事務所、東京本部で技能実習生252名、特定技能32名の受入れ実績。
5月／武部会長訪越、佐々木内閣府審議官らと日越大学新キャンパス建設予定地を視察。VNU・レ・クアン・総長、VJU古田学長らと懇談。
5月／二階俊博日越友好協議会会長らと合流。ヴァン・トゥオン国家主席、ファム・ミン・チン首相、ヴァン・ディン・フエ国会議長らと会談。チュオン・ティ・マイ越日協議会会長（党常務らと日本の運の樹植式を行う）。
5月／タイン・ホア省（ト・フイルア）越日友好協会会長、ファム・ミン・チン首相の出身地で日越外交関係50周年を祝うレセプション開催。日本からの国会議員約10名、山梨知事ら行政・経済団体約100名が参加。
6月／東亜総研創立10周年記念フォーラム開催。
11月／「北海道フェスティバル in ハロン」開催予定。

10月／ベトナム初のOMOTENASHIスクールが開校。
10月／武部会長、ハロン大学の特別顧問就任。
10月／武部会長、ファム・ミン・チン首相と会談。
10月／武部会長訪越、チュオン・ティ・マイ越日協議会会長と会談。
11月／東亜総研関西事業本部開所式。
12月／「ホーチミンフレンドシップダイアログ」出席。
12月／武部会長訪越。レー・ミン・ホアン農業農村開発大臣、グエン・バン・タン交通運輸大臣、グエン・スアン・キークアンニン省党書記、レ・クアン・ハノイ国家大学総長らと会談。
2月／東亜総研定例セミナーで、松川るい参議院議員の講演。
2月／日越外交関係樹立50周年記念第8回JVF開催。ファン・ヴァン・マイホーチミン市長が主催者挨拶。
2月／日越大学理事会開催。
2月／武部会長、チュオン・ティ・マイ越日友好協議会会長、チャン・ホン・ハー副首相と会談。
2月／武部会長、グエン・スアン・キークアンニン省党書記と会談。「北海道フェスティバル in ハロン」の成功を共に確約。
3月／グエン・バン・タン交通運輸省（MOT）大臣との会談。
3月／北見事務所、札幌事務所、東京本部で技能実習生252名、特定技能32名の受入れ実績。
5月／武部会長訪越、佐々木内閣府審議官らと日越大学新キャンパス建設予定地を視察。VNU・レ・クアン・総長、VJU古田学長らと懇談。
5月／二階俊博日越友好協議会会長らと合流。ヴァン・トゥオン国家主席、ファム・ミン・チン首相、ヴァン・ディン・フエ国会議長らと会談。チュオン・ティ・マイ越日協議会会長（党常務らと日本の運の樹植式を行う）。
5月／タイン・ホア省（ト・フイルア）越日友好協会会長、ファム・ミン・チン首相の出身地で日越外交関係50周年を祝うレセプション開催。日本からの国会議員約10名、山梨知事ら行政・経済団体約100名が参加。
6月／東亜総研創立10周年記念フォーラム開催。
11月／「北海道フェスティバル in ハロン」開催予定。

10月／ベトナム初のOMOTENASHIスクールが開校。
10月／武部会長、ハロン大学の特別顧問就任。
10月／武部会長、ファム・ミン・チン首相と会談。
10月／武部会長訪越、チュオン・ティ・マイ越日協議会会長と会談。
11月／東亜総研関西事業本部開所式。
12月／「ホーチミンフレンドシップダイアログ」出席。
12月／武部会長訪越。レー・ミン・ホアン農業農村開発大臣、グエン・バン・タン交通運輸大臣、グエン・スアン・キークアンニン省党書記、レ・クアン・ハノイ国家大学総長らと会談。
2月／東亜総研定例セミナーで、松川るい参議院議員の講演。
2月／日越外交関係樹立50周年記念第8回JVF開催。ファン・ヴァン・マイホーチミン市長が主催者挨拶。
2月／日越大学理事会開催。
2月／武部会長、チュオン・ティ・マイ越日友好協議会会長、チャン・ホン・ハー副首相と会談。
2月／武部会長、グエン・スアン・キークアンニン省党書記と会談。「北海道フェスティバル in ハロン」の成功を共に確約。
3月／グエン・バン・タン交通運輸省（MOT）大臣との会談。
3月／北見事務所、札幌事務所、東京本部で技能実習生252名、特定技能32名の受入れ実績。
5月／武部会長訪越、佐々木内閣府審議官らと日越大学新キャンパス建設予定地を視察。VNU・レ・クアン・総長、VJU古田学長らと懇談。
5月／二階俊博日越友好協議会会長らと合流。ヴァン・トゥオン国家主席、ファム・ミン・チン首相、ヴァン・ディン・フエ国会議長らと会談。チュオン・ティ・マイ越日協議会会長（党常務らと日本の運の樹植式を行う）。
5月／タイン・ホア省（ト・フイルア）越日友好協会会長、ファム・ミン・チン首相の出身地で日越外交関係50周年を祝うレセプション開催。日本からの国会議員約10名、山梨知事ら行政・経済団体約100名が参加。
6月／東亜総研創立10周年記念フォーラム開催。
11月／「北海道フェスティバル in ハロン」開催予定。



東亜総研とNAGOMi

アジアの安定と日本の持続的成長のために
アジアの模範的な人材育成・確保システムの構築をめざして

2020年の春、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、技能実習生や留学生らは、国に帰ることもできずコロナ禍の恐怖と生活不安のどん底に追い込まれた。

東亜総研は、全職員あげて技能実習生等の保護・支援に奔走した。緊急対策を急がないと日本の信頼性も危うくなると説いた。自民党二階俊博幹事長は、直ちに関係機関に対策を促すとともに監理団体等の全国組織をつくってはどうかと武部会長にアドバイスを。早速、有志と図り、2020年10月、外国人材共生支援全国協会（NAGOMi）設立に至った。またグローバル人材共生推進議員連盟（平沢勝栄会長）も設立され、NAGOMiと連携して毎月2回のペースで長島昭久幹事長を座長に勉強会を開き、技能実習制度と特定技能制度の一貫性ある制度改正に向け積極的に取り組んでいる。

NAGOMiの代表理事会長には武部東亜総研会長が就任。現在、副会長には塩崎恭久元厚生労働大臣、宮腰光寛元内閣府担当大臣、梅田邦夫元駐ベトナム日本国大使、それに監理団体運営経験が長い畠ヶ山幹雄氏らが務めている。全国8ブロック協会による組織化がなされ、富山県や宮城県等、県単位の支部づくりも進められつつある。NAGOMiは、日本で学び、働きたいと願う向上心ある若者たちを迎え入れ、未来を託すのにふさわしいパートナーとして共に活躍できるアジアの模範的な人材育成・確保システムの構築をめざしており、今後、東亜総研のさらなる連携協力が期待されている。

1. 2020年10月8日、一般財団法人外国人材共生支援全国協会設立時の役員の顔ぶれ。
2. 2022年9月6日、グローバル人材共生推進議員連盟にて講演するダオ・ゴック・ズンベトナム MOLISA大臣（衆議院議員会館国際会議室にて）。
3. ベトナム労働傷病兵社会問題担当大臣を囲むNAGOMiとグローバル人材共生推進議員連盟幹部。



技能実習制度に関する日越協力覚書の締結

日越両国は、NAGOMiとVAMASの緊密な協力によりベトナム人技能実習生や労働者の適切な日本への派遣事業の推進を誓いあった。2021年11月に首相官邸にてファム・ミン・チンベトナム首相が来日した際、岸田文雄首相とチン首相の立ち合いのもと、NAGOMiの梅田邦夫副会長とVAMASのヴァー・コン・ビン副会長が協力覚書を交わした。

東亜総研創設 10周年に寄せて。

東亜総研が設立されて、早くも10年という記念すべき年を迎えました。心よりお慶びを申し上げます。私が衆議院議員を引退して程ない時期に、武部会長より東亜総研という団体を作りたいとのお話がありました。かねてより武部会長は、ベトナムやモンゴルを中心に熱心に交流されていましたし、メコン圏という組織も作られ、東南アジアに強い関心をお持ちのことは存じておりました。会長が議員退任後もなお、その情熱を絶やさずにおられていることに共感し、評議員会の議長の任をお受けすることになりました。

国際関係は、近年、中国の東、南シナ海や台湾を巡る武力による現状変更の懸念を原因として、米中の対立が先鋭化し、ヨーロッパにおいてもロシアのウクライナへの侵略は、核戦争の危機を孕みながら予断を許しません。こうした中、力をつてつあるG20やASEAN、グローバルサウス諸

国等の動向が無視できなくなっています。そこで、我が国がアジアを中心にこれまで培ってきた、これらの諸国との友好な関係を、政府レベルのみならず、各般の民間団体が補完、強化していく活動が大切と考えます。東亜総研は、日越大学の設立を支援し、技能実習生の受け入れを通して人材交流に努め、フェスティバル等を開催して日本文化や日本の地域紹介に努めてきています。今後はベトナム、モンゴル、中国などにことさらに、その活動の場を更に広げ、武部会長が抱いて来られた構想の実現に邁進されることを期待しています。

公益財団法人東亜総研
評議員会 議長

村田 吉隆



2019年9月27日、遼寧省瀋陽市トップの張雷市党委書記主催の夕食会に臨む村田吉隆氏ら訪越団一行（武部会長は瀋陽市の名誉市民）。



2018年5月、武部会長旭日大綬章を受章。2018年9月2日、祝賀会（北見会場）で武部会長を支えた元秘書グループと記念撮影。

〈特別対談〉

これまでの10年、

これからの10年。

アジアで新たな道を切り開いてきた

東亜総研の10年。

世界が転換点を迎えている今、

二人のキーマンが描く将来のビジョンとは。



時代を先取りした
「アジアとの共生」

田中 寧氏（以下敬称略）…武部会長に初めてお会いしたのは8年前のことです。「これから日本がアジアとどう向き合い未来を創っていくか、大きなビジョンを描いて行動しなければならぬ」。その言葉に圧倒され、世界観・アジア観に強い共感を覚えたことが、昨日のこのように鮮明に甦ります。

武部 勤会長…私は常に、日本がアジアの一員だということを強く意識しながら活動してきました。国会議員初当選の頃、渡辺美智雄先生に同行してアジア各国へ赴いた際、「インドネシアはシーレーンのど真ん中で、人口2億4,000万人の大国だ。この国がどこへつくかで日本の運命が決まる。インドネシアのことをしっかりと勉強しよう」とか「インドシナ半島が平和になり安定して成長していけば、ここが日本の大きなマーケットになるだけでなく、大国・中国の覇権を牽制することにもつながるだろう。だからベトナムのこともしっかり勉強しよう」と仰っていました。その時の言葉は私の原点であり、忘れたことはありません。

アジア諸国の存在感は年々大きくなる。アジアの成長は世界平和の試金石とも言われており、我々にも大きな意味を持っています。

田中…所謂グローバルサウスが台頭し、欧米諸国はようやく新興国との向き合い方を真剣に考えるようになったと感じます。自分達の側へ取り込もうとする動きを見せていますが「今更」の印象は拭えません。武部会長は遥か以前から「アジアとの共生」の重要性を訴え行動されてきました。それは時代の先取りであり、世界がやっと追いついてきたと感じます。今混沌とする世界を目の当たりにし、まさに慧眼ではないでしょうか。

私自身も長い間、新興国と接してきましたが、先進国への不信や不安を内に秘めていると感じることが少なくありません。その度、武部会長が仰る「上から目線ではなく対等なパートナーとしてアジア諸国と接することの大切さ」を痛感します。会長は心と心のパートナーシップを築くという志を心に刻み、真の友人として誠意をもって新興国と向き合ってこられました。それはアジアと日本の懸け橋であり日本の国益にも直結します。アジアが大きく飛躍しようとし

ている今、同じアジアの一員として欧米と異なる姿勢で向き合えることが日本の大きな強みであり、同時に新興国側が求めていることではないでしょうか。国を越えて向き合うには相手の文化、歴史、伝統への深い造詣、敬意や謙虚さが不可欠。アジアの気候・風土に育まれたウェットな寛容の精神や柔軟な感性を持つ日本人だからこそできることが多くあるはずです。

例えばベトナムは日本のODA等によりインフラ整備が大きく進み、目覚ましい高成長を遂げました。これからは持続可能な社会を作るための人材育成が重要です。自国だけではなくアジア全体の安定と繁栄に貢献する人材も求められるのではないのでしょうか。インフラは誰が造ってもそれほど大きく変わらないかもしれませんが、人材育成にはその国の価値観や生き様がそのまま滲み出ます。機微を感じ取りお互いを尊重する姿勢がなければ、人づくりに一番必要な「信頼」は得られません。だからこそこうした理念のもと、東亜総研がベトナムをはじめとするアジア諸国との結びつきを一層強める活動を展開することは、世界の中で日本の存在感を高めていく上で極めて重要だと確信しています。

田中 寧（たなか やすし）

住友商事株式会社顧問。国際協力銀行（JBIC）マニラ次席駐在員、国際協力機構（JICA）民間連携事業部長、東南アジア・大洋州部長、理事を経て、2021年4月から現職。小学生時代をタイバンコクで過ごし、田中総理（当時）訪問時の反日暴動に遭遇したことが原体験となった。





事業の根底にあるのは 「人づくりは国づくり」

武部：今ウクライナで続いている悲惨な戦争やコロナ禍を背景に、世界中で分断化・多極化が加速しています。我々は今、これからの世界がどうなっていくのかを見据えながら、新しい生き方や新しい価値観を模索しなければならぬ局面を迎えています。

これからは、生産力や軍事力といったハードパワーよりも、知力や情報力、文化力、人間力といったソフトパワーがより強い影響力を持つはずです。

田中：アジア諸国のこれまでの成長は主に安い労賃に支えられてきました。しかし、その成長モデルはいずれ限界を迎えるでしょう。これからは人材をしっかりと育てながら新たなイノベーションを起こし、「質の高い成長」を生み出していくことが求められるのではないのでしょうか。

武部：昔から「人づくりは国づくり」と言われています。私は東亜総研を起こした時に「我々の役割は人づくりに貢献していくこと」だと肝に銘じ、様々な事業を行なう上で

の基軸として大切にしてきました。

アジアの国々から日本に迎え入れる若者達の立場で、単なる労働力としてではなく、共に活躍するパートナーとしてしっかりと育て上げるという考え方で、東亜総研は設立以来、ベトナムにおける日越大学の設立や技能実習生の受け入れに取り組んできました。

厳しい言い方をすると、かつて経済大国と言われた日本は今、惨憺たる状態にあります。

しかしそのような我が国へ、技能実習生の若者達は憧れを抱いて来てくれています。それは一体なぜなのか。おそらく「日本へ行けば高い賃金をもらえる」ということではなく、彼女たちの根底にあるのは、日本の生産システム、生活習慣、文化への憧れです。「日本で働きたい」というよりも、日本に憧れ、「日本を学びたい、日本で学びたい」という想いが強いのだと感じます。

これからも日本が世界の国々の中で選ばれ、再び輝きを取り戻すためには、自分達の伝統や歴史、文化というものを再認識した上で、国際性を高めアジアの国々から信頼される日本になるよう、日本の国柄や魅力を磨き上げることが肝要だと考えます。



2021年4月7日、武部会長は上川陽子法相と面談。



2022年3月8日、日越大学新キャンパス予定地をハノイ国家大学のレ・クアン総長らと視察。



意識自体を変革する 「グローバル人化」

田中：日本には世界に誇れる大きな魅力や価値があるにも関わらず、日本人が内向き志向に陥っているのはたいへんもったいないと感じます。我々が蓄積してきた知見を自信を持ってアジアへ積極的に発信していかなければなりません。

ベトナムをはじめ、アジアの国々は今、環境、都市問題といった目覚ましい高成長の歪みへの対応を迫られています。これらはかつて日本が経験し、苦勞しながら乗り越えてきたものです。

武部：私達の役目は二つあると思っています。そのうちの一つは、田中さんが仰ったような「課題先進国」として日本の失敗、経験を繰り返さないように助言することです。

ベトナムなどのアジア諸国には、日本に憧れを抱き日本の良い点を学ぼうという意欲を持った方々がたくさんおられますが、そのような方々と話す際、私は「日本はこういう失敗をしている」ということも伝えています。同じ失敗を繰り返さないでほしいという想いがあるからです。課題先進国であることは我々にとって残念なことでは

すが、そこからアジアの発展につながれば大きな意義があります。

我々のもう一つの役目は、日本人を外国とつなげることだと思っています。日本は人口減少時代に入り、資源はもとより自給できず、

外へ出なければ生き残れません。外国から向上心のある若者を積極的に迎え入れる一方で、日本から外国へ行きたい人もたくさんいます。個人だけでなく企業や地方自治体もそうです。私は今、日越大学の付属機関として日本文化・技術・言語センターを母体にして日越総合交流センターを創り、現地に事務所を持たない中小企業や地方自治体が利用できるようにしたいと考えています。ここを拠点にアジアに限らず世界中の人々と情報が集まるプラットフォームを育て、新しい文化や技術が生まれる場にしたいと願っています。

田中：日越大学を訪問した際、アフリカなどアジア以外からの留学生の存在に驚かされました。皆目を輝かせており、世界へ広がっていく大きなプラットフォームになると予感しました。世界が歴史的な転換期に立つ今、日本人は内向き志向を改め、受け身のインバウンドだけでなく、アウトバウン

ド、つまり、海外に目を向け、足を延ばし、異文化と大いに交流し、触発しあい、そしてアジアと一緒に未来を共創する気概を持つことがこれから重要になると感じます。

武部：私は最近「令和の開国論」を提唱しておりまして、それはドアを内側ではなく外側へ開けるイメージです。まず外国から人材を迎え入れてしっかりと日本のシステムを学んでいただき、それから日本人と共に海外へ出ていけるパートナーとして活躍する「グローバル人材共生社会」を目指しています。

そのためにはまず日本人の「内なる国際化」が必要。外国人と一緒に生活していくには、障害者の雇用で企業が助成金や減税で優遇されるのと同様、外国人に対して、も社会保障や教育や宗教上の問題など一定の社会的コストを皆で負担する国民的コンセンサスが不可欠です。外国人材を活用するだけではなく、日本人自身が「グローバル人化」した「グローバル人材」にならない必要ありません。

SDGsの考え方「誰一人取り残さない (leave no one behind)」も大切に、世界中の人と人、地域と地域をつなぎ世界の平和と発展へ貢献できるよう願っています。

Ⅲ 日本の国柄や魅力を磨く国民運動を

山川草木に命が宿るという万物共生・万物一体の精神文化こそ日本の国柄の基礎をなしている。東亜総研は、日本の文化・歴史・伝統を再認識し、日本の国柄の良さや魅力を磨く国民運動を提唱してまいりたい。

【東亜総研の活動指針】

- 東亜総研「日本の国柄を考える」定例セミナーを全国各地に拡大発展させていく。
- 教育、社会保障、労働慣行等、外国人に対する一定の社会的コストを受け入れる国民的コンセンサスを求めていく。



Ⅳ イノベーションと観光立国を車の両輪に

日本の技術革新や精神文化に憧れ訪れる外国人が増えている。異なる文化の草の根交流は、新しい文化を生み出し、新しいイノベーションを創り出し、新しい成長を促す。東亜総研は、「イノベーション」と「観光立国」を車の両輪に日本の将来像を追求してまいりたい。

【東亜総研の活動指針】

- 知力、文化力、情報力、人間力のソフトパワーで「イノベーション」のチャンスをつくりだす。
- 教育・文化・スポーツ・観光交流で地方再生を支援。



Ⅴ 人間重視の人材育成・国際交流を

東亜総研は、今後「人づくりは国づくり」の精神で、人間重視の人材育成・国際交流を積極的に進めてまいりたい。

【東亜総研の活動指針】

1.日越大学支援事業

日越大学構想は、日越両国の友好と結束の象徴ともいべき共同の戦略的国家プロジェクトとして期待されている。

①日越大学(VJU)国内支援事務局

東亜総研は設立以来、国内支援事務局を担い広報活動等を支援してきたが、2022年10月に設立された「VJU日本委員会(代表:武部勤会長)」の企画・運営等に携わることとなる。日越大学関係省庁会議や日越大学推進議員懇話会との連絡調整を進める他、ベトナム政府等とのハイレベルな折衝等の支援が求められる。

②VJUの実践的専門教育機関への協力

VJUは、ハノイ国家大学(VNU)の1校として開学した研究志向大学である。2023年2月の理事会でレ・クアン理事長(VNU総長)は「人材開発センター」設置を唱え、学生や社会のニーズに応える実践的専門教育に取り組むことを了承した。VJUで実践的専門教育や技能実習修了者等のキャリアセンターの実現に向けて調査検討を進めたい。

③VJU友好の杜

二階俊博日越友好協議連会長が提唱する「VJU友好の杜」(フレンドシップ・ガーデン)の造成を側面から支援してまいりたい。



2.人材育成・確保

東亜総研は、技能実習生受け入れ監理団体ではあるが、今後は人材紹介を含め幅広く外国人材の確保・育成・保護・支援等の全般について取り組んでまいりたい。

3.国際修学旅行

東亜総研は、既に「国際修学旅行推進機構」設立に関する素案を策定しており、今後は国際修学旅行交流の推進を重点事業として取り組んでまいりたい。

4.北海道フェスティバル in ハロン

クアンニン省創立60年・日越外交関係樹立50年記念「北海道フェスティバル in ハロン」を2023年11月17～19日、ベトナム・ハロン市において開催する。北海道・クアンニン省による覚書署名と日越両国政府の後援によって「つなごう多文化共生社会」「手と手をとって、未来へ、世界へ」をテーマに開催されることの意義は大きい。東亜総研は、これまでの知見と経験を活かして「北海道フェスティバル in ハロン」のために支援してまいりたい。

東亜総研これからの10年

世界は日本を待っている。

幕末の日本は他国からの圧力によって国を開いたが、令和の今、日本は進んで世界に貢献しながら、自国の存立を図っていくべきである。これを一言でいうなら共生ということになろう。

人口減少時代に突入したわが国において、日本の国柄を守りつつ日本人の国際性を高め、共に活躍できる「グローバル人材共生社会」をめざし、「為すべきを為す」勇気と決断が必要だ。

ゼレンスキーウクライナ大統領を迎え、グローバルサウスの首脳も参加した「G7広島サミット」は分断から新しい秩序と協調の萌芽を感じとることができたと思う。存在感を高めた日本は内向き志向に陥らず、自由で開かれた国際秩序の推進役となることが重要だ。欧米とは異なる価値観や国柄を持つ日本はその先導役になれるはずだ。

世界は日本を待っている。

地球村時代に生きる気概を持とう。

東亜総研の道しるべ

地球村時代に生きる気概に燃え、人づくりは国づくりの精神で、グローバル人材共生社会の実現に貢献します。

I アジアとの共生に向けたプラットフォームづくりを

アジアは協和と共生の知恵を持っている。日本はアジアの文化、歴史、伝統を共有し、人材育成、技術協力など「ソフトパワー」をベースにアジアとの共生をめざすことが日本の活路になると確信する。東亜総研は、志あるものと連携して日本とアジアの共生に向けたプラットフォームづくりをさらに発展させたい。

【東亜総研の活動指針】

- 日本への関心やコミュニケーション能力を高めてもらうために日本文化・言語センターの設置をアジア各地に広める。
- アジア諸国及び主要都市における単独事務所ないしは拠点づくりを進める。



II グローバル人材共生ネットワークを全国各地に

アジアからの若者たちを未来を託すのにふさわしい人材に育成し、共に活躍できる外国人材就労システムの構築を急ぐべき。東亜総研は、グローバル人材共生ネットワークを全国各地に展開してまいりたい。

【東亜総研の活動指針】

- 整合性のある技能実習制度と特定技能制度の一元化をめざし、共に活躍できる外国人材就労システムを構築する。
- 東亜総研の会員組織化を進めながらNAGOMiの全国ネットワークづくりを支援する。



日越総合交流センター（イメージ図）

「日越総合交流センター構想」の実現を前提に、現在「日越大学付属日本文化・技術・言語センター」の設置に関する調査を実施中。



東亜総研の未来に寄せて。



公益財団法人 東亜総研 理事
一般社団法人 日本ベトナム経済フォーラム 代表理事

吉田 允昭

東亜総研の10周年を心からお祝い申し上げます。12年程前に日越大学構想を画策していましたが、武部会長のお力なしでは成功はないと、小泉元総理大臣に武部会長をご紹介頂きました。今日の日越大学があるのは、武部会長のおかげと深く感謝しております。東アジア共存共栄という理念の下、益々のご発展を確信しております。



ESUHA Co., Ltd.
代表取締役社長

レロンソン

東亜総研設立10周年誠にありがとうございます。武部会長の築かれた各国との友好関係が東亜総研の設立によりさらに深まり、その存在は今後一層重要となることを確信しております。相手国との共存共栄を軸としたご活動に敬意を表すると共にベトナムおよびESUHAへの多大なご協力に深謝致します。今後益々のご発展を心より祈念申し上げます。



公益財団法人 東亜総研 理事
医療法人社団ミッドタウンクリニック 理事

渡邊 美和子

10周年の節目を迎え、当財団が「協和の精神」に則りアジアの平和と繁栄への寄与に尽力できました事に、改めて支援者の皆様に心から感謝申し上げます。武部勤会長の溢れる熱意と行動力により人材育成、経済・文化交流、研究・啓発活動等を通じてアジア各地に生まれた絆は、日本の希望であり宝であると感じております。



北海道ベトナム交流協会オホーツク 会長
陽気堂クリエート工業株式会社 会長

加藤 農夫也

公益財団法人東亜総研が創立10周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。協和の精神のもと、創立から今日まで日越をはじめとし、日本と東アジアとの架け橋として双方の発展のため様々にご尽力されたことは畏敬の念に堪えません。創立10周年を節目とし更に発展されますことをご祈念申し上げます。



日越大学 学長

古田 元夫

東亜総研の創立10周年おめでとうございます。私たちの日越大学は、武部勤先生を「生みの親」とする大学で、先生の深い関与をいただいておりますが、東亜総研にも、日本側の支援体制の一角を担っていただき、たいへんお世話になっております。東亜総研の日ごろのご協力に感謝するとともに、ますますのご発展を祈念いたします。



北海道ベトナム交流協会宗谷 会長
稚内とみおか商店会 理事長

今村 光壹

東亜総研創立10周年心から心からお喜びを申し上げます。武部勤会長のご指導のもとベトナム交流協会宗谷設立をきっかけに「技能実習生」受け入れを通じ共に育む共生社会の必要性を強く考える機会となりました。東亜総研の新たな時代に向けグローバル人材共生社会実現の礎となる財団に期待を致します。



公益財団法人 東亜総研 評議員
学校法人 日本体育大学 理事長

松浪 健四郎

「アジアのハーバード」を標榜して設立された日越大学は、大学院設置からスタートを切り、順調に発展中だ。知識人の養成こそが大切で、日本の理解に役立つ。東亜総研の重要なプログラムとして、日越交流の旗印としての貢献は、両国相互理解の礎となっている。アジアの多くの国々との交流、今後の東亜総研の仕事である。



公益財団法人 東亜総研
北見事務所 主幹

チャン ティトゥー ユン

2016年頃に実習生として来日し、人生が大きく変わりました。「若い時の苦労は買ってでもせよ」の格言どおり、最初は苦勞もありましたがたくさんの方に助けられ、自分の価値を高めることができました。2019年末からは東亜総研で技能実習生のサポートをしています。これからも日越友好の懸け橋になれるよう努力してまいります。

〔主な事業〕

東亜総研の目的（定款第3条より）

「この法人は、日本と東アジア並びに関連する地域において、互いを思いやる協和の精神に則り、共に栄えることを目的とするものである。そのために様々な対話や事業を通じて信頼関係を醸成し、他国の問題も自らの問題と自覚し、日本の持てる力を日本と東アジアのために発揮、以て地域の安定と世界の平和に貢献するものである。」

東亜総研の役割（設立趣意書より）

東亜総研の第一の役割は、東アジア並びに関連する諸国や地域に対し対話を促進するための信頼関係を構築することにあります。対話は信頼関係があってはじめて実を結ぶからです。第二の役割は、対話の中から政治・経済・外交・安全保障など各般にわたり、いま必要なこと、未来にとって必要なことを探り出し、価値観とビジョンの共有を求めつつ、調査研究・情報収集・分析評価を行うことです。第三の役割は、必要なものを具体化するためにコンサルティングを行い、人材の育成・交流、投資や技術の紹介・斡旋などの事業を推進することです。

1.

日越大学等支援業務
（業務受託事業）

当財団設立の契機となった日越大学構想は、2013年日越両国首相による日越共同声明、2014年ベトナム国家主席訪日時の日越共同声明に基づき、両国政府協力のもとで推進されている事業です。構想から設立、そして現在の運営にいたるまで日越大学を支援しています。

2.

外国人技能実習生等
受入れ事業
（監理団体、登録支援機関等）

外国人技能実習制度の趣旨を正しく理解し、実習実施者・送出し機関と協力し技能実習生が技能を適正に修得し、自立し、国際貢献に役立つよう監理団体として外国人技能実習生受入れ事業を行っています。また、特定技能制度における登録支援機関として支援業務を行っています。

3.

国際交流等
推進事業
（国際修学旅行）

児童・青少年の身体的・精神的健全育成のため、日本と東アジア各国の児童・青少年の相互親善交流として学校交流、芸術・文化交流、スポーツ交流などを中心に国際交流等推進事業を行います。

4. 相談・助言事業

ジャパン ベトナム フェスティバルや一般財団法人外国人材共生支援全国協会(NAGOMI)への相談・助言をはじめ、日本とアジアの国々との技術・サービス・ノウハウ・文化等の相互理解及び交流に資するプラットフォームとなるべく相談・助言事業を実施しています。

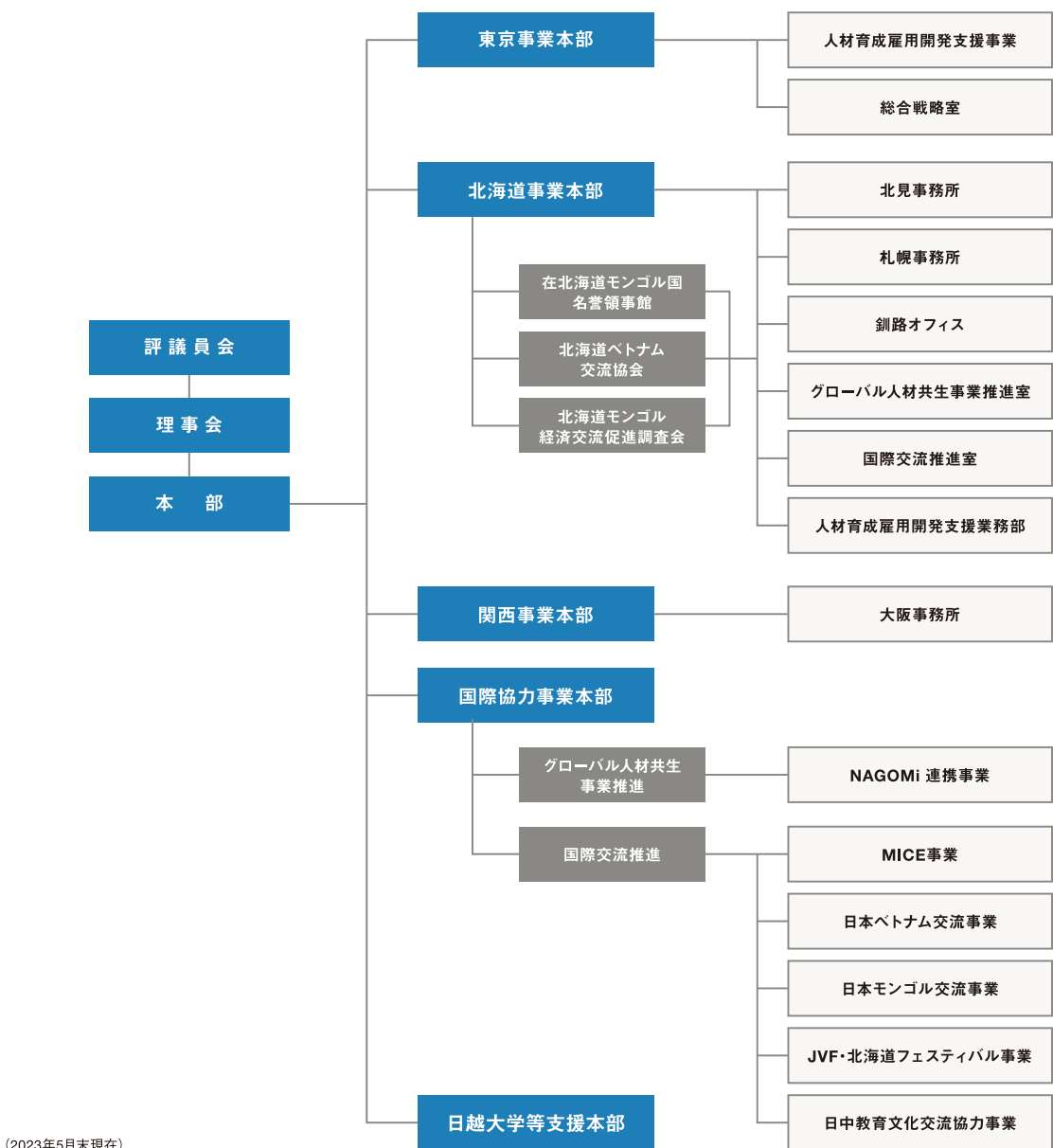
5. 定例セミナー・特別フォーラム

アジアの国・地域の政治、経済、外交、文化等を中心テーマに、日本の大使経験者、駐日各国大使、国内外の有識者や若手政治家らを講師とするセミナーを開催しています。

6. 調査研究

日本とアジアの関係がますます深化するなか、ベトナム国等の調査研究機関との連携協力により、政治、経済、文化、社会等に関する調査研究業務を行います。

〔組織図〕



(2023年5月末現在)

「アジアの人材育成・人材交流のプラットフォーム」としての東亜総研

公益財団法人 東亜総研／代表理事・専務

上山 茂生

公益財団法人 東亜総研は、2013年の設立以来、定款記載の目的を一貫して追求し事業活動を行ってきました。東亜総研の最大の特徴は「事業実現力」です。実現困難と思われた事業を、国内外の多くの皆様の協力を得て実現してきました。これからの10年も「アジアの人材育成・人材交流のプラットフォーム」として、さまざまな事業を展開していきます。東亜総研は公益財団法人です。公益法人とは、「公益の増進を図ることを目的として、法人の設立理念に則って活動する民間の法人」とされており、公益財団法人として、これからの10年の東亜総研の事業の実現のためにはこれまで同様に多くの方々からのご支援が必要です。皆様からのご協力を心よりお願い致します。



各事業本部スタッフ



東京



北海道



関西

公益財団法人 東亜総研

東亜総研は、日本と東アジア並びに関連する地域において、互いを思いやる協和の精神に則り、共に栄えることを目的として、平成25年（2013）6月27日に設立しました。

様々な対話や事業を通じて信頼関係を醸成し、他国の問題も自らの問題と自覚し、日本の持てる力を日本と東アジアのために発揮、東アジアの民生向上と経済発展に寄与し、それらの活動によって国と国との友好関係を強め、地域の安定と世界の平和・繁栄に貢献することを目的としています。

〔理 事〕		〔評議会〕		〔顧 問〕
代表理事・会長	武部 勤	評議員会・議長	村田 吉隆	特別顧問 二階 俊博
代表理事・理事長	長澤 薫	評議員	池島 政広	特別顧問 ギエム・ヴァー・カイ
代表理事・専務	上山 茂生	評議員	高野 武	特別顧問 岡田 秀一
理 事	大泉 充彦	評議員	武田 治	特別顧問 杉山 秀二
理 事	小川 龍彦	評議員	津田 廣喜	特別顧問 谷口 博昭
理 事	神田 孝次	評議員	藤田 幹雄	特別顧問 藪中 三十二
理 事	清宮 克良	評議員	松浪 健四郎	顧 問 梅本 建紀
理 事	高橋 太郎			顧 問 近藤 剛
理 事	武部 毅			顧 問 櫻庭 武弘
理 事	築野 元則	〔監 事〕		顧 問 瀧澤 中
理 事	長澤 雄二郎	監 事	篠原 祥哲	
理 事	日田 春光	監 事	岩佐 孝仁	
理 事	吉田 允昭			
理 事	渡邊 美和子			
(2023年5月末現在)				

公益財団法人 東亜総研 〒102-0082 東京都千代田区一番町4-42 一番町Ⅱビル5階 〔TEL〕 03-6369-8530 〔FAX〕 03-6369-8531	
東亜総研 北見事務所 〒090-0058 北海道北見市高栄西町1-10-7 〔TEL〕 0157-33-1517 〔FAX〕 0157-33-1554	東亜総研 札幌事務所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目 NX札幌ビル6階 〔TEL/FAX〕 011-206-0111
東亜総研 大阪事務所 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-2-2-1000 大阪駅前第2ビル10階 〔TEL〕 06-6346-6161 〔FAX〕 06-6346-6162	東亜総研 釧路オフィス 〒085-0847 釧路市大町1-1-10 大栄産業大町ビル4階 〔TEL〕 090-1525-6047 〔FAX〕 0154-37-2187

